

HT25015 アニマルミステリー2013 ～ヤギ飼いになろう～



開催日	: 平成25年10月19日(土)
実施機関 (実施場所)	: 宮城教育大学(生活科実験室・グラウンド)
実施代表者 (所属・職名)	: 斉藤千映美 (環境教育実践研究センター・教授)
受講生	: 小学校5年生～中学1年生
関連URL	:

【実施内容】

○プログラムの工夫

当日、参加者は、集めた教室で学年別に数名ずつのグループを作って着席。1日の流れについて説明を行った後、アイスブレイクを兼ねてグループ内で自己紹介ゲームを行いました。各グループにはそれぞれ学生が入って、子どもたちの支援に当たりました。これらは、参加者同士の間の緊張した雰囲気を和らげ、集団での学習の雰囲気作りをするために行った工夫です。

自己紹介のあとは、参加者にこれから行う実習への興味関心を高める目的で、「家畜と人間」「ヤギとはどんな動物か?」について、写真を見せながら話をしました。話の最後では、「ミステリー」を各グループへのクイズとして出題。ミステリーを解くためには、実際にヤギを観察する必要がある、という流れから、屋外活動に移りました。

ミステリーの内容は、ノルウェーの昔話「三匹のヤギのがらがらどん」、まどみちおの童謡「やぎさんゆうびん」などをモチーフに出題しました。本物のヤギについてはよく知らないけれど、絵本や童謡には小さい時から親しんでいる参加者に、考える糸口を与えるためです。

動物飼育施設では、グループごとにふれあいについての注意、手指と足底消毒を行ってから、ミステリーにチャレンジしました。

本学では実は、ヤギ以外にもウサギやニワトリを飼育しています。グループごとに一定時間、自由に観察する時間を確保し、それらの動物にも観察の目を向けることで、比較しながらの観察が可能になりました。

○当日のスケジュール

9:00-9:30 開講式、科研費の説明、アイスブレイク、講義とクイズ紹介

9:45-11:30 ミステリーにチャレンジ!

12:00-13:00 休憩

13:00-14:00 ミステリーの結果発表、最後のミステリー

14:00-14:30 未来博士号の授与、アンケート記入

○実施のようす



○事務局との協力体制

事務局は、実施時期の調整、広報活動、参加者申し込みとりまとめ、予算執行などにあたり、教員に対して全面的な支援を実施した。顔のみえるやりとりを通じて相互理解を図りながら、メールでの情報交換を緊密に実施した。

○広報活動

ポスター制作、近隣小学校及び附属小学校への配布、地域情報紙および大学ホームページへの掲載を実施した。

○安全配慮

屋外活動を実施することから、参加者・主催者は全員、傷害保険に加入した。

当日は安全配慮のため、ふれあい活動の前に注意事項を参加者に直接、実演しながら伝達した。ふれあいの前後に手洗い消毒と足底消毒を行った。

子どもたちを小グループに分け、それぞれのグループに学生を配置(参加者2~3名につき学生1名)して、子どもたちに怪我のないよう、見守りと支援を行った。体の大きなヤギのそばには、それとは別に担当学生を配置し、事故がないよう管理を行った。

参加者には事前に問い合わせを行い、アレルギー対応の軽食を提供した。

○今後の発展性と課題

いま、身近な動物といえば、犬や猫ばかりになってしまい、ペットを家で飼育していない家庭では、ほんものの動物に触れることはほとんどない。牧場で乳搾り体験をしたことがある、という参加者もいたが、疑問を持って主体的に動物と観察する機会は極めて少ないだろう。

事業は多くの参加者に好評であった。また来たいという子どもたちの声、学生に感謝する保護者の声などが多く聞かれて、達成感があった。イベントの終了後も、立ち去りがたく、繋がれたヤギのそばで学生とおしゃべりをしたりふれあいをしている方たちも見受けられた。

生きているもの、本物に触れることはなによりの生物学教材であると、改めて感じさせられた。

また、日常的に動物の飼育管理と教育教材化に取り組む学生たちにとっても、かけがえのない実践の場であったと思う。

多くの参加者の、「もっと学びたい」という意欲に応えられる企画をしていきたい。

【実施分担者】

佐々木 久美(職員)

【実施協力者】 11 名

【事務担当者】

研究・連携推進課 研究協力係 中嶋 恵里